
令和 6 年度学校評価 苫小牧市立拓進小学校

1 目的

児童がよりよい教育を享受できるよう、その教育活動等の成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指す。

2 評価時期、評価方法

(1) 前期

- ・令和 6 年 6、7 月
- ・教職員アンケート、児童アンケート

(2) 後期

- ・令和 6 年 11、12 月
- ・教職員アンケート、児童アンケート、保護者アンケート

(3) 総括

- ・令和 7 年 2 月 18 日（第 3 回学校運営協議会）

3 評価者

(1) 前期

- ・本校教職員
- ・本校児童

(2) 後期

- ・本校教職員
- ・本校児童
- ・本校保護者

(3) 総括

- ・学校運営協議会委員

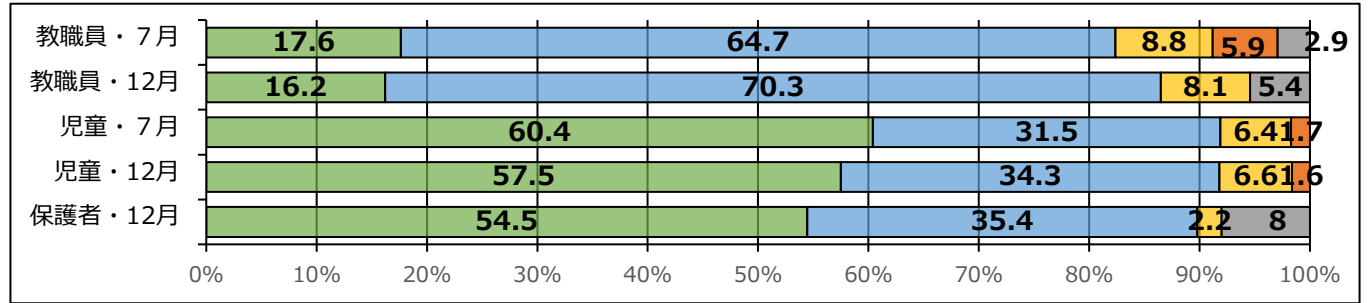
設問 1

I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

(1) 授業改善の徹底

- ☐ 教職員「学校は、授業改善（指導方法の工夫やタブレット端末の活用など）などの学力向上に向けた取組を行っているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「国語と算数の授業の内容は分かるか」 ※重点取組事項の数値目標として設定
(A:分かる、B:だいたい分かる、C:あまり分からない、D:分からない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「学校は、授業改善（指導方法の工夫やタブレット端末の活用など）などの学力向上に向けた取組を行っているか」
(A:行っている、B:どちらかというも行っている、C:どちらかというも行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	17.6	64.7	8.8	5.9	2.9	82.4
教職員・12月	16.2	70.3	8.1	0	5.4	86.5
児童・7月	60.4	31.5	6.4	1.7	0.0	91.9
児童・12月	57.5	34.3	6.6	1.6	0	92.5
保護者・12月	54.5	35.4	2.2	0.0	8.0	89.8



「国語と算数の授業の内容は分かる」と肯定的な回答をした児童の割合が90%を上回り、国語と算数で学習したことを理解している児童が多いことがうかがえる。また、前期と比較して、肯定的な回答をした教職員の割合が増加していることから、今年度における授業改善の取組について成果が表れてきている。

自由記述から

- 【成果】
※特記事項なし
- 【課題】
※特記事項なし

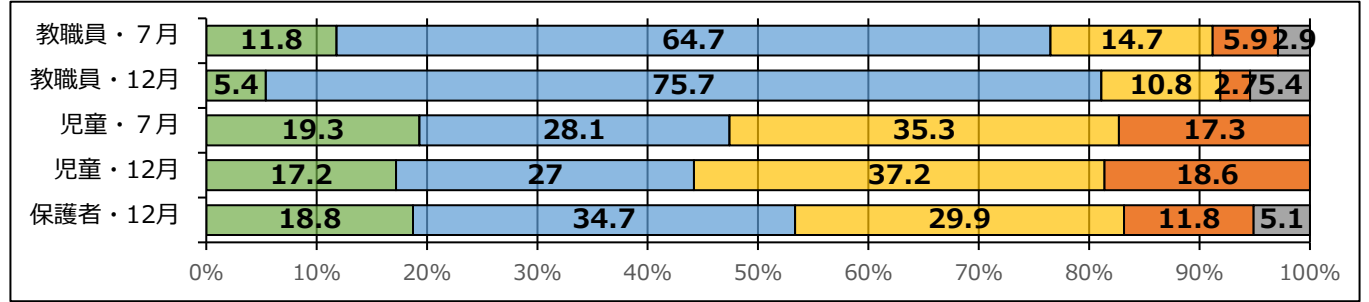
設問 2

I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

(1) 授業改善の徹底

- ☐ 教職員「学校は、子どもの読書習慣が身に付くための取組を行っているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「授業時間以外に、1日当たりどれくらい読書をするか」(ただし、教科書や参考書、まんが、雑誌は除く)
(A: 60分以上、B: 30～59分、C: 1～29分、D: 0分、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「家庭は、子どもの読書習慣が身に付くための取組を行っているか」
(A:行っている、B:どちらかというも行っている、C:どちらかというも行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	11.8	64.7	14.7	5.9	2.9	76.5
教職員・12月	5.4	75.7	10.8	2.7	5.4	81.1
児童・7月	19.3	28.1	35.3	17.3	0.0	47.4
児童・12月	17.2	27.0	37.2	18.6	0.0	44.2
保護者・12月	18.8	34.7	29.9	11.8	5.1	53.5



「読書習慣が身に付くための取組を行っている」肯定的な回答をした教職員の回答は80%程度となっているが、「30分以上読書をした」と回答した児童の割合が50%を下回っていることから、日常的な読書活動や、ボランティアによる読み聞かせ等を通して、学校と家庭、地域が連携して、児童の読書活動の充実を図る取組を継続して行う必要がある。

自由記述から

【成果】

※特記事項なし

【課題】

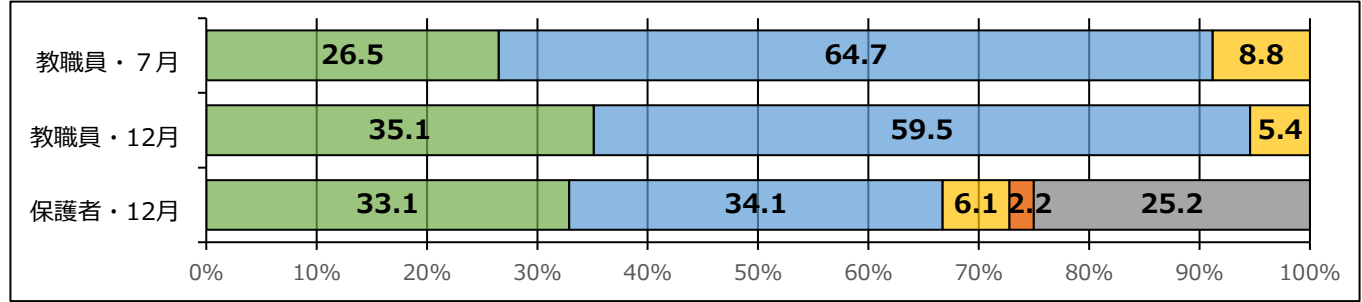
※特記事項なし

設問 3

I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組
(1) 授業改善の徹底

- ☐ 教職員「学校は、子どもの特性や発達上の課題を踏まえ、個に応じた支援を行っているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「学校は、子どもの特性や発達上の課題を踏まえ、個に応じた支援を行っているか」
(A:行っている、B:どちらかというも行っている、C:どちらかというも行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	26.5	64.7	8.8	0.0	0.0	91.2
教職員・12月	35.1	59.5	5.4	0.0	0.0	94.6
保護者・12月	33.1	34.1	6.1	2.2	25.2	67.2



「個に応じた支援を行っている」と肯定的な回答をした教職員の割合が90%を上回った。今後も、校内支援委員会を中心に、特別な教育的支援の必要な児童のアセスメントを行い、適切な指導・支援を受けることができるような環境を整えていく。また、個に応じた支援に関わる取組について、保護者への周知を図る必要がある。

自由記述から

【成果】
※特記事項なし

【課題】

①授業についていくのが大変になってきた子に対して、学年、学校としてどのように取り組んでいるのかを知りたい。（保護者）
→子どもたち一人一人の実態を把握した上で、学年や校内支援委員会で情報を共有し、支援員による授業中のサポートや適切な学びの場について検討を行い、保護者と連携しながら指導・支援を進めております。

②支援員等によるサポートについて、実際にどのように取り組んでいるのか分からなくて不安になる。（保護者）
→学級担任、支援員、通級担当教員やフリーの教員等が、情報を共有しながらサポート体制について試行錯誤しながら支援を行っています。保護者の皆様に不安を与えることのないよう、家庭と連携を図りながらよりよい支援の在り方を検討してまいります。

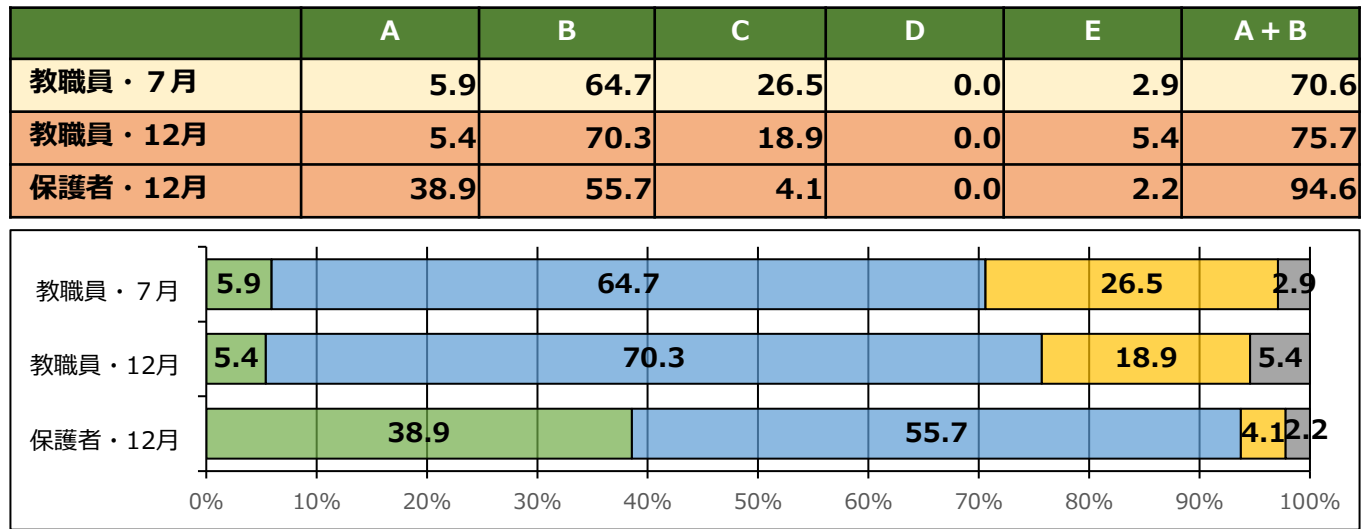
③勉強のサポートを継続して対応してもらえていないと感じる。担任の先生が、他の補助で入っている先生ともしっかり連携して個々の生徒へのアプローチをしてほしい。
→不安な思いをさせてしまい申し訳ありませんでした。担任と担任外の教職員が連携して、共に子どもたちをサポートしていく体制を整えてまいります。

設問 4

I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

(1) 授業改善の徹底

- ☐ 教職員「子どもは、授業を通して学んだことが身に付いているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「子どもは、授業を通して学んだことが身に付いているか」
(A:身に付いている、B:どちらかというと身に付いている、C:どちらかというと身に付いていない、D:身に付いていない、E:分からない・回答できない)



「子どもは、学んだことが身に付いている」と肯定的な回答をした教職員の割合が70%を上回っているが、全国学力・学習状況調査や市統一学力検査の結果から、児童の学習内容の習得・活用において課題が見られる。一方で、設問1「国語と算数の授業の内容は分かる」と肯定的な回答をした児童の割合が高いことと相反していることから、児童が学びを実感し、身に付けた力を活用できるような授業改善を推進する必要がある。

自由記述から

【成果】
※特記事項なし

【課題】
①「授業の内容は分かる」と肯定的な回答をした児童の割合は増えているが、単元テスト等の結果において成果が出ていない面もある。（教職員）
→今年度途中から導入した「計算タイム」やタブレット端末の持ち帰りによる家庭学習など、基礎的・基本的な学びの定着を図ることができるような取組を推進していきます。

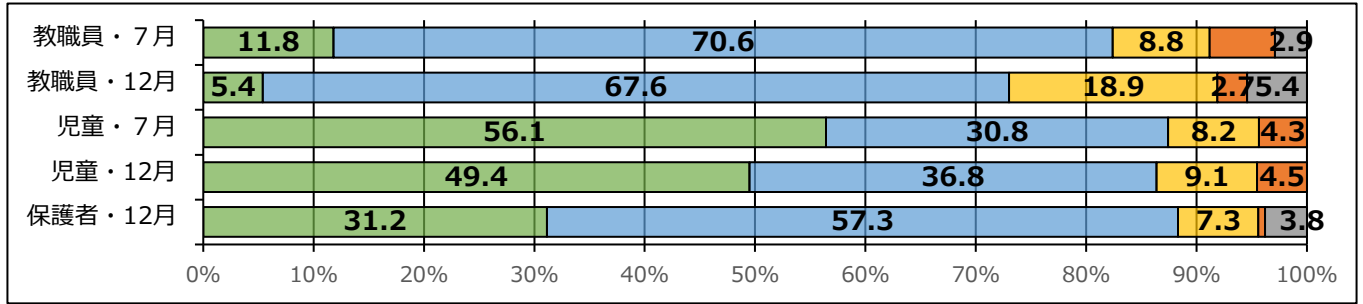
設問 5

I 一人一人に主体的に学ぶ力と確かな学力を育てる取組

(2) 家庭学習の指導の徹底

- ☐ 教職員「学校は、家庭と連携して望ましい家庭学習習慣の定着に取り組んでいるか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「家庭学習に進んで取り組んでいるか」
※重点取組事項の数値目標として設定（質問内容をR5から変更）
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「家庭は、学校と連携して望ましい家庭学習習慣の定着に取り組んでいるか」
(A:取り組んでいる、B:どちらかというに取り組んでいる、C:どちらかというに取り組んでいない、D:取り組んでいない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	11.8	70.6	8.8	5.9	2.9	82.4
教職員・12月	5.4	67.6	18.9	2.7	5.4	73.0
児童・7月	56.1	30.8	8.2	4.3	0.0	87.0
児童・12月	49.4	36.8	9.1	4.5	0.0	86.2
保護者・12月	31.2	57.3	7.3	0.6	3.8	88.5



学校経営方針を踏まえ、児童への質問について、学習した時間から「進んで学習に取り組んでいるか」に変更したところ、「進んで学習に取り組んでいる」と肯定的に回答した割合が85%を超える結果となり、家庭における声掛け等が成果につながっている様子が伺える。

今後は、今年度から導入しているタブレット端末の持ち帰りと学びの関連性を深めることができるように工夫していくことが大切になる。

自由記述から

- 【成果】
※特記事項なし
- 【課題】
①宿題プリントの裏に回答を載せることの意味を知りたい。（保護者）
→自分で答え合わせをすることで、自分がどこまでできているのか、どうして間違えたのかなどを考え、自分の課題に対して主体的に取り組めるようにしています。子どもたちにも、主体的に学習に取り組むことの大切さを実感させられるように努めてまいります。
②家庭学習ノートの書き方をもっと指導してほしい。（保護者）
→家庭での学習方法については、子どもたちが困ることのないよう、繰り返し伝えていくように進めてまいります。参観日には、家庭学習のモデルを掲示しておりますので参考にしてください。

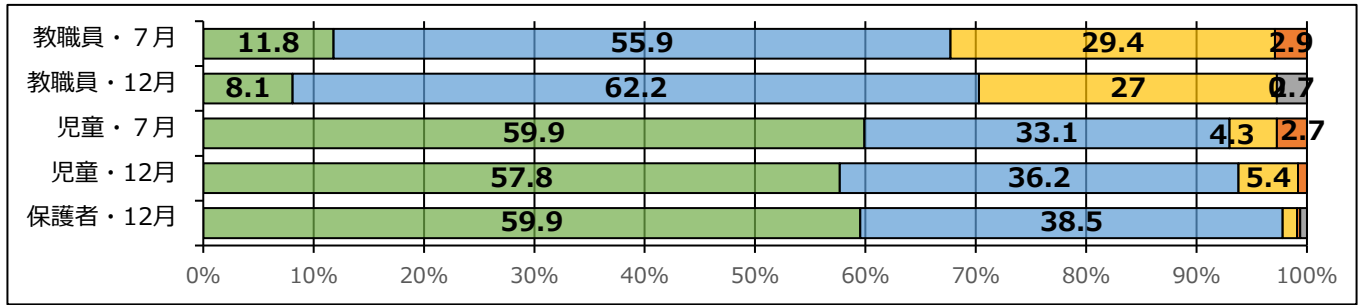
設問 6

Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

(3) 不登校・いじめ問題への対応

- ☐ 教職員「学校は、子どもが学校内外のきまりを守って生活できるよう指導しているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「学校のきまりや家での約束を守って生活しているか」
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「家庭は、子どもが家庭での約束を守って生活できるよう指導しているか」
(A:指導している、B:どちらかという指導している、C:どちらかという指導していない、D:指導していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	11.8	55.9	29.4	2.9	0.0	67.6
教職員・12月	8.1	62.2	27.0	0.0	2.7	70.3
児童・7月	59.9	33.1	4.3	2.7	0.0	93.0
児童・12月	57.8	36.2	5.4	0.8	0.0	94.0
保護者・12月	59.9	38.5	1.3	0.3	0.6	98.4



「子どもがきまりを守って生活できるよう指導している」と肯定的な回答をした教職員の割合が70%程度で、「きまりや約束を守って生活をしている（指導している）」と肯定的な回答をした児童及び保護者の割合が90%を上回った。今後、学校での特別活動、道徳科等での指導を充実させるとともに、学校、保護者、地域が学校内外のきまりや約束について共通理解を図りながら、教育活動を推進する必要がある。

自由記述から

- 【成果】
※特記事項なし
- 【課題】
①染髪、アクセサリー、金銭の取扱い等、学校のきまりとしての徹底が難しくなっている。（教職員）
→学校のきまりに法的根拠はありませんが、「なぜきまりを守る必要があるのか」を児童自身が考える機会をつくるなど、児童の規範意識を高め、家庭と連携を図りながら学校生活をよりよくするためのルール整備について検討してまいります。

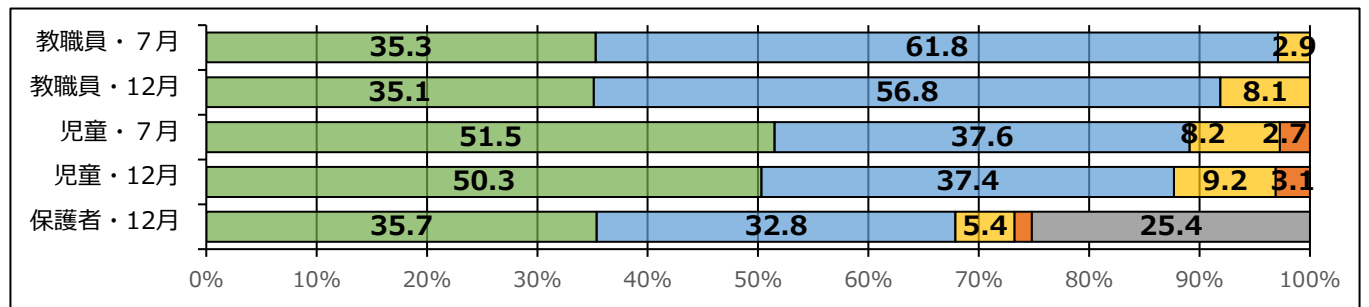
設問 7

Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

(3) 不登校・いじめ問題への対応

- ☐ 教職員「学校は、子どもの悩みや問題に適切に対応し、いじめや不登校の未然防止と早期対応に努めているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながらっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「先生は、自分が困ったりなやんだりしているときに、相談に乗ってくれるか」
(A:相談に乗ってくれる、B:どちらかといえば相談に乗ってくれる、C:どちらかといえば相談に乗ってくれない、D:相談に乗ってくれない)
- ☐ 保護者「学校は、子どもの悩みや問題に適切に対応し、いじめや不登校の未然防止と早期対応に努めているか」
(A:努めている、B:どちらかというとならしている、C:どちらかというとならしていない、D:努めていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	35.3	61.8	2.9	0.0	0.0	97.1
教職員・12月	35.1	56.8	8.1	0.0	0.0	91.9
児童・7月	51.5	37.6	8.2	2.7	0.0	89.1
児童・12月	50.3	37.4	9.2	3.1	0.0	87.7
保護者・12月	35.7	32.8	5.4	1.6	25.4	68.5



「適切に対応し、いじめや不登校の未然防止と早期対応に努めている」と肯定的な回答をした教職員の割合、「先生は相談に乗ってくれる」と肯定的な回答をした児童の割合が共に90%程度の結果となった。今後も、児童や保護者からの教育相談に適切に対応し、児童の問題行動、いじめ問題、不登校等の生徒指導上の諸課題の未然防止、早期発見、早期支援・対応に努める。

自由記述から

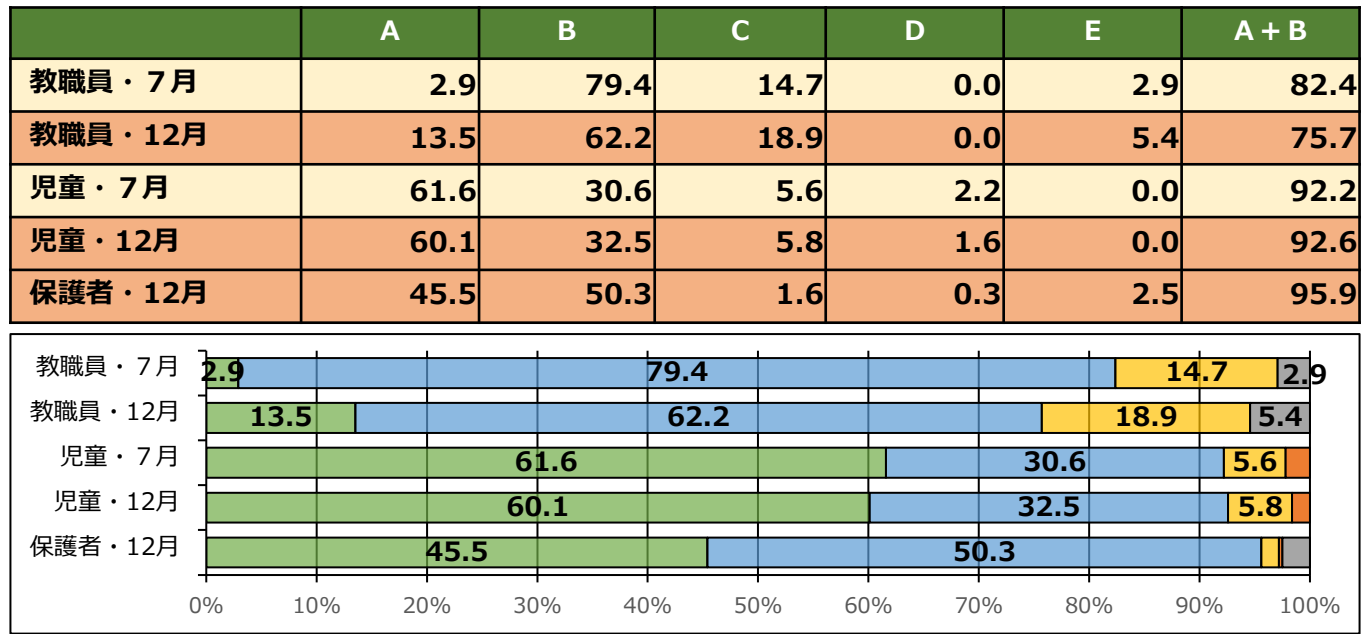
- 【成果】
- ①・担任の先生はよいことは褒めてくれ、困りごとには瞬時に対応してくださるのでとてもありがたいです。
(保護者)
- ・友達とのトラブルが起きたときにすぐに対応していただきました。(保護者)
- どの学年、学級においても児童の不安に寄り添い、スピード感のある対応ができるように、学校全体で子どもたちの安全・安心を確保する意識を高めていきたいと思います。
- 【課題】
- ①子どもが泣きながら登校しても特に理由も声かけもしてくれなかったこともあり、困ったことがあったときも言っても何もしてくれないだろうと先生に言えないことがありました。
- 不安な思いを抱かせてしまい、申し訳ありませんでした。児童に困ったことがあればすぐに対応できるように、担任だけでなく、担任外も連携して学校全体で取り組んでまいります。

設問 8

Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

(3) 不登校・いじめ問題への対応

- ☐ 教職員「学校や家庭での指導を通して、子どもに思いやりの気持ちが育っているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「思いやりをもって、人に優しく接しているか」
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「学校や家庭での指導を通して、子どもに思いやりの気持ちが育っているか」
(A:育っている、B:どちらかというくと育っている、C:どちらかというくと育っていない、D:育っていない、E:分からない・回答できない)



「子どもに思いやりの気持ちが育っている」と肯定的な回答をした教職員の割合が80%を下回ったものの、「人に優しく接している」と肯定的な回答をした児童の割合が90%を上回った。今後も、目指す子ども像「思いやりの心をもち、助け合う子」に向けて、教職員と児童のギャップが縮まるよう、取組を推進する必要がある。

自由記述から

- 【成果】
※特記事項なし
- 【課題】
※特記事項なし

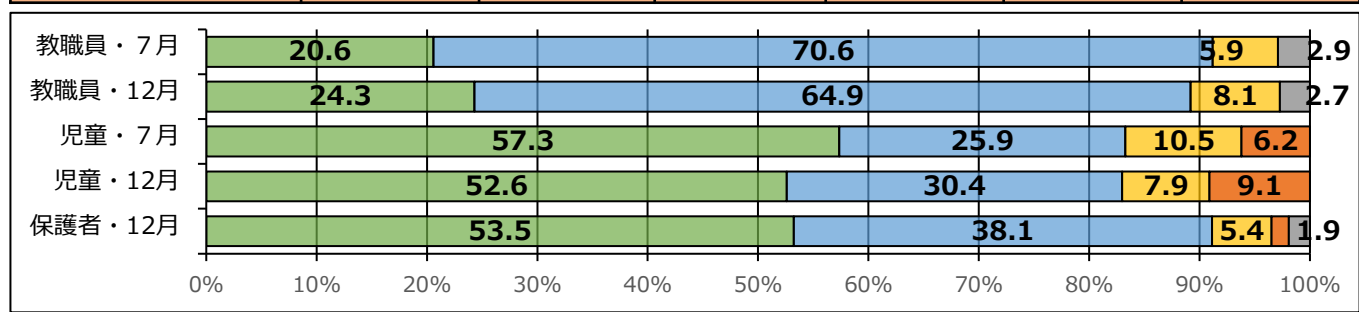
設問 9

Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組

(3) 不登校・いじめ問題への対応

- ☐ 教職員「学校は、子どもが楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに努めているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「学校は楽しいか」 ※重点取組事項の数値目標として設定
(A:楽しい、B:どちらかといえば楽しい、C:どちらかといえば楽しくない、D:楽しくない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「子どもは学校生活を楽しく送っているか」
(A:そう思う、B:どちらかというと思う、C:どちらかというと思わない、D:そう思わない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	20.6	70.6	5.9	0.0	2.9	91.2
教職員・12月	24.3	64.9	8.1	0.0	2.7	89.2
児童・7月	57.3	25.9	10.5	6.2	0.0	83.2
児童・12月	52.6	30.4	7.9	9.1	0.0	83.0
保護者・12月	53.5	38.1	5.4	1.6	1.9	91.6



「環境づくりに努めている」と肯定的な回答をした教職員の割合、「学校は楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合が共に80%を上回り、保護者の肯定的な回答も90%を上回る結果となったが、肯定的ではない回答をした児童が一定数いることから、学校は誰一人取り残さない姿勢を徹底する必要がある。学校において、児童が自己存在感を感受したり、共感的な人間関係を形成したり、自己決定の場が多く提供され、主体的に学校生活を楽しむことができるような環境づくりを推進していく。

自由記述から

- 【成果】
- ①・「学校が楽しい」と通っており、日頃の先生方のご尽力に感謝いたします。先生方から学校での児童たちの様子を良く見てくださっている印象を受けます。今後も、良いと思うことは取り入れ、無理のない範囲で継続していただくと幸いです。
- ・子どもから、担任の先生と休み時間に遊んだ、先生とお話をして楽しかったという話をよく聞きます。関わりを深めてもらえることがありがたいです。
- ありがたいお言葉をいただき感謝いたします。このようなお言葉は大変励みになります。拓進小に通う全ての児童が「学校を楽しい」と思えるような学校づくりを教職員一同で進めてまいります。

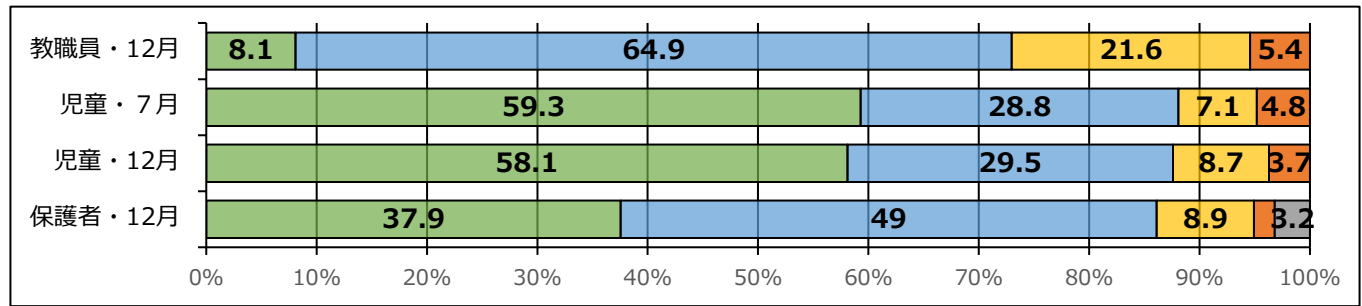
【課題】

※特記事項なし

設問10
Ⅱ 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組
(3) 不登校・いじめ問題への対応

- 教職員「学校での指導を通して、子どもは進んであいさつをしているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- 児童「学校や家、地域で、自分から進んであいさつをしているか」
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- 保護者「家庭での指導を通して、子どもは進んであいさつをしているか」
(A:している、B:どちらかというとしている、C:どちらかというとしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・12月	8.1	64.9	21.6	5.4	0.0	73.0
児童・7月	59.3	28.8	7.1	4.8	0.0	88.1
児童・12月	58.1	29.5	8.7	3.7	0.0	87.6
保護者・12月	37.9	49.0	8.9	1.9	3.2	86.9



「自分から進んであいさつをしている」と肯定的な回答をした児童の割合がほぼ90%だった。あいさつは定着してきた様子が見られるが、「明るく元気なあいさつ」について、子どもたち自ら進んであいさつをすることができるような取組の充実を図っていく。

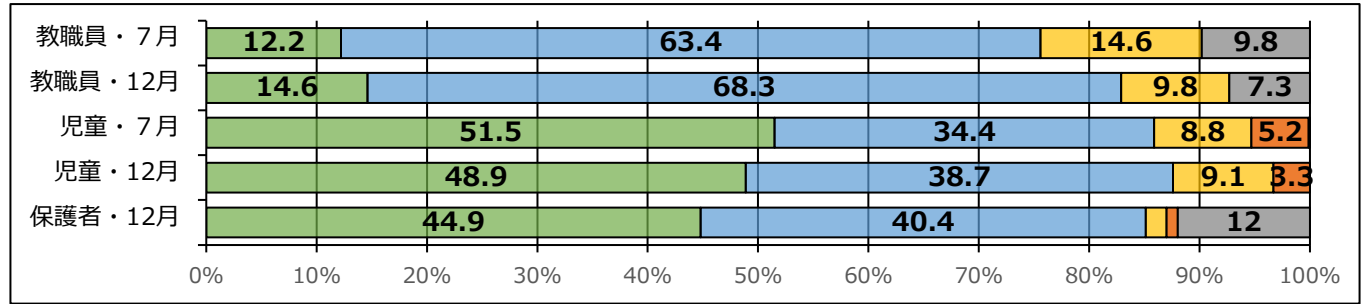
自由記述から

- 【成果】
※特記事項なし
- 【課題】
※特記事項なし

設問11
II 豊かな人間性を育て、他者を思いやる人を育てる取組
(3) 不登校・いじめ問題への対応

- 教職員「学校は、道徳の授業や日常的な指導を通して、道徳教育の充実を図っているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- 児童「道徳の授業で考えたことを学校や普段の生活に生かしているか」
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- 保護者「学校は、道徳の授業や日常的な指導を通して、道徳教育の充実を図っているか」
(A:図っている、B:どちらかという図っている、C:どちらかという図っていない、D:図っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	14.7	52.9	23.5	2.9	5.9	67.6
教職員・12月	13.5	70.3	8.1	0.0	8.1	83.8
児童・7月	50.0	34.3	10.7	5.0	0.0	84.3
児童・12月	48.9	38.7	9.1	3.3	0.0	87.6
保護者・12月	44.9	40.4	1.9	1.0	12.0	85.4



「道徳教育の充実を図っている」と肯定的な回答をした教職員の割合及び「学校や普段の生活に生かしている」と肯定的な回答をした児童の割合が前期よりも改善傾向が見られた。道徳教育の全体計画及び年間指導計画等を踏まえて、道徳科を要として児童の道徳性の涵養を養うとともに、授業参観等で保護者の道徳教育への理解を図りながら、道徳教育を継続していく。

自由記述から

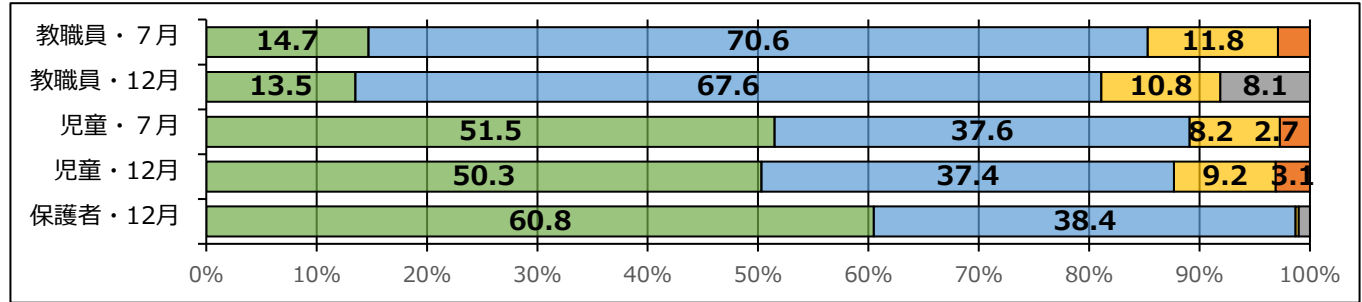
- 【成果】
※特記事項なし
- 【課題】
※特記事項なし

設問12

Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組
(4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

- ☐ 教職員「学校は、基本的な生活習慣が身に付くように指導を行っているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「学校や家で規則正しい生活をしているか」
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「家庭は、基本的な生活習慣が身に付くように指導を行っているか」
(A:行っている、B:どちらかというも行っている、C:どちらかというも行っていない、D:行っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	14.7	70.6	11.8	2.9	0.0	85.3
教職員・12月	13.5	67.6	10.8	0.0	8.1	81.1
児童・7月	51.5	37.6	8.2	2.7	0.0	89.1
児童・12月	50.3	37.4	9.2	3.1	0.0	87.7
保護者・12月	60.8	38.4	0.3	0.0	1.0	99.2



「基本的な生活習慣が身に付くように指導を行っている」と肯定的な回答をした教職員の割合が80%を上回り、「規則正しい生活をしている」と肯定的な回答をした児童の割合が90%程度となった。今後も、学校、保護者、地域で共通理解を図りながら、児童の基本的な生活習慣の定着を図る。

自由記述から

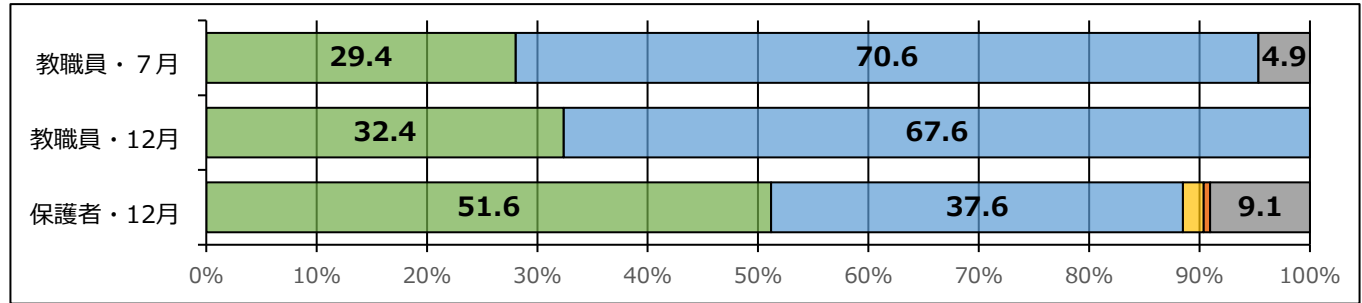
- 【成果】
※特記事項なし
- 【課題】
※特記事項なし

設問13

Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組
(4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

- ☐ 教職員「学校は、登下校の安全や災害、学校事故等の防止に適切に対応しているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「学校は、登下校の安全や災害、学校事故等の防止に適切に対応しているか」
(A:対応している、B:どちらかというに対応している、C:どちらかというに対応していない、D:対応していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	29.4	70.6	0.0	0.0	0.0	100.0
教職員・12月	32.4	67.6	0.0	0.0	0.0	100.0
保護者・12月	51.6	37.6	1.9	0.6	9.1	89.2



「適切に対応している」と肯定的な回答をした教職員の割合が100%となった。引き続き、学校安全計画や危機管理マニュアル等を踏まえて、児童が安心・安全に過ごすことができるよう、安全教育及び安全管理を推進する。

自由記述から

- 【成果】

※特記事項なし
- 【課題】

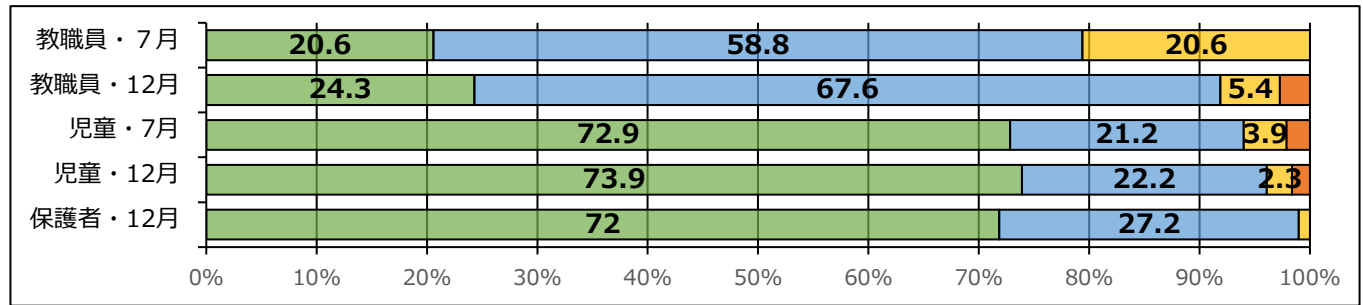
※特記事項なし

設問14

Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組
(4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

- ☐ 教職員「学校は、子どもが交通ルールやマナーを守れるよう、指導しているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「交通ルールやマナーを守って生活しているか」
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「家庭は、子どもが交通ルールやマナーを守れるよう指導しているか」
(A:指導している、B:どちらかという指導している、C:どちらかという指導していない、D:指導していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	20.6	58.8	20.6	0.0	0.0	79.4
教職員・12月	24.3	67.6	5.4	2.7	0.0	91.9
児童・7月	72.9	21.2	3.9	2.1	0.0	94.1
児童・12月	73.9	22.2	2.3	1.6	0.0	96.1
保護者・12月	72.0	27.2	1.0	0.0	0.0	99.2



「子どもが交通ルールやマナーを守れるよう、指導している（守って生活している）」と回答した教職員（後期）、児童、保護者の割合が90%近く、指導を徹底することができた様子がうかがえる。ただし、児童の自転車の乗り方、遊び方等に関して、地域住民からの苦情や指導の依頼が多くあったことから、引き続き、粘り強く指導する必要がある。

自由記述から

【成果】
※特記事項なし

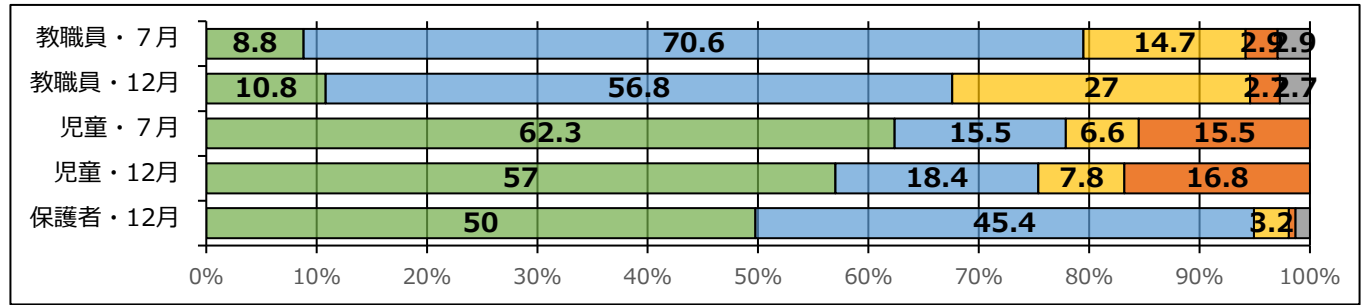
【課題】
①下校時、青信号が点滅する頃に渡りはじめ、わざと中央分離帯辺りで止まり、右折車が譲っても渡らず赤信号になり、そのまま留まっている児童を複数回見えています。学校において、横断歩道の約束についても合わせて指導していただきたいと思います。
→児童の登下校については、繰り返し指導を行ってまいります。保護者の皆様、地域の皆様には、いつも児童の安全を気にかけていただき感謝いたします。今後も、学校・地域・家庭が連携して子どもたちの安全を守る体制を整えていきたいと思ひます。

設問15

Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組
(4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

- 教職員「学校は、携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使用について家庭での約束を決めるような働きかけや子どもたちの情報モラルの向上に努めているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につながらっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- 児童「携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、テレビゲームの使い方について家の人と約束を決めて守っているか」
(A:約束を決めて守っている、B:約束を決めているが、守れていない、C:約束を決めていないが、今後決める予定である、D:約束を決めていないし、今後決める予定はない、E:分からない・回答できない)
- 保護者「家庭は、携帯電話やスマートフォン、コンピュータの使用について家庭での約束を決め、子どもたちの情報モラルの向上に努めているか」
(A:努めている、B:どちらかというとな努めている、C:努めていない、D:努めていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	8.8	70.6	14.7	2.9	2.9	79.4
教職員・12月	10.8	56.8	27.0	2.7	2.7	67.6
児童・7月	62.3	15.5	6.6	15.5	0.0	77.8
児童・12月	57.0	18.4	7.8	16.8	0.0	75.4
保護者・12月	50.0	45.4	3.2	0.6	1.3	95.4



「約束を決めるよう働きかけをし、情報モラルの向上に努めている」と肯定的な回答をした教職員の割合が後期は70%を下回り、スマートフォンの利用に関わるSNS等のトラブル対応も多数発生している。特別活動や道徳科等で指導するとともに、課題が見られる児童や保護者に対して、学級懇談や個別面談、各種通信等で積極的に働きかける必要がある。また、入学説明会等における外部講師の活用も検討していく。

自由記述から

【成果】
※特記事項なし

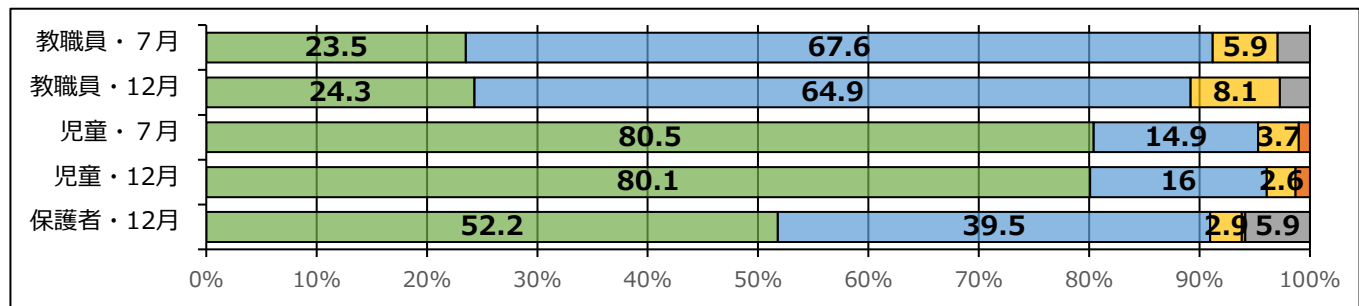
【課題】
①学校から持ち帰るタブレット端末を勉強以外での使用や、時間外の使用に困っている。（保護者）
→学校でも情報モラルやタブレット端末の利用等についての指導を行っておりますが、まだまだ十分ではありません。全ての利用を制限することは難しいですが、繰り返し指導を行いながら、家庭と連携を図って、情報機器利用の約束について児童が自分事として考えることができるように情報モラル教育を進めてまいります。
②スマートフォンの使用時間についてルールを何度も話し合っているが、本人がなかなか守る事が出来ず悩ましい。（保護者）
→同様のご意見を多数いただいております。学校では、タブレット端末を使用する機会が増えたことから、情報モラル教育を推進することが急務となっており、外部機関と連携した出前授業も行っています。家庭においても、スマートフォンを持たせる意味や、約束を守らないことによってトラブルや犯罪に巻き込まれるリスクをお子様と一緒に確認していただけると大変ありがたいです。

設問16

Ⅲ たくましく生きるための健康なからだづくりを進める取組
(4) 基本的生活習慣の確立・運動の日常化

- ☐ 教職員「学校は、体育の授業や体力づくりを通して、体力向上を図っているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 児童「体育の授業でたくさん運動しているか」 ※重点取組事項の数値目標として設定
(A:している、B:どちらかといえばしている、C:どちらかといえばしていない、D:していない、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「学校は、体育の授業や体力づくりを通して、体力向上を図っているか」
(A:図っている、B:どちらかという図っている、C:どちらかという図っていない、D:図っていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	23.5	67.6	5.9	0.0	2.9	91.2
教職員・12月	24.3	64.9	8.1	0.0	2.7	89.2
児童・7月	80.5	14.9	3.7	1.0	0.0	95.4
児童・12月	80.1	16.0	2.6	1.3	0.0	96.1
保護者・12月	52.2	39.5	2.9	0.3	5.9	91.7



「体力向上を図っている」と肯定的な回答をした教職員の割合が80%を上回り、「体育の授業でたくさん運動している」と肯定的な回答をした児童の割合が数値目標（95%）を上回った。今後も、児童の運動量を確保しながら、児主体的に課題解決に取り組んだり、仲間と対話し協力して課題解決をしたりする資質・能力を育成できるよう、学校全体で取り組む。

自由記述から

【成果】
※特記事項なし

【課題】

①・運動会で順位をつけないことによって意欲が下がる子がいるので順位付けを復活させてほしい。（保護者）

- ・運動会等では、いつも特定の子どもばかりが中心となっていることを悲しく思う場面がある。（保護者）
- ・運動会の徒競走で順位をつけないことや80メートル走にすることは理解ができない。（保護者）
- ・運動会での全員リレーが見たい。（保護者）
- ・運動会で活躍して自信につながる子どももいると思う。コロナ前の運動会を体験してみたい。（保護者）

→貴重なご意見をいただきありがとうございます。運動会については、様々な視点からたくさんのご意見をいただいております。どの小学校においても、コロナ禍後の運動会については、実施種目や実施方法等を模索しながらよりよい在り方を検討しながら開催しています。全ての方に納得していただくことは難しいかもしれませんが、子どもたちにとって有意義な行事となるように、保護者の皆様のご意見を踏まえつつ、次年度以降の実施内容について検討してまいります。

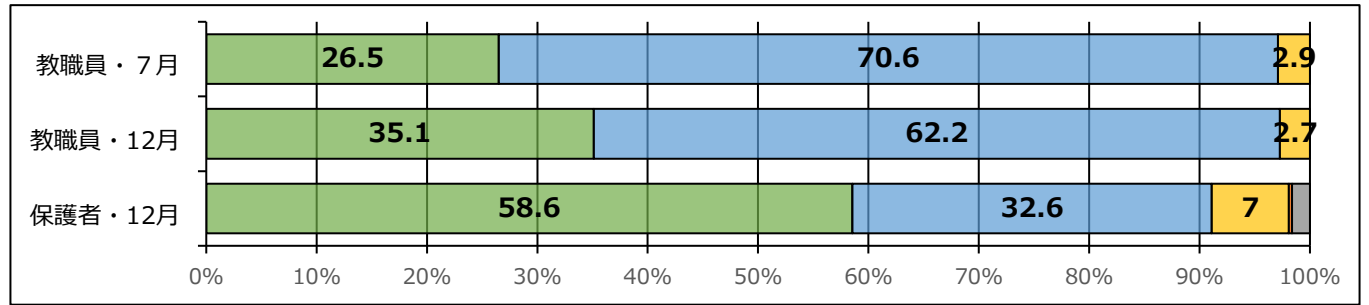
設問17

Ⅳ 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

□ 教職員「学校（学年、学級）は、授業参観や文書（学校便り、学年便り、学級便り等）により、教育方針や取組、子どもの様子等を伝えているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなっていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)

□ 保護者「学校（学年、学級）は、授業参観や文書（学校便り、学年便り、学級便り等）により、教育方針や取組、子どもの様子等を伝えているか」
(A:伝えている、B:どちらかという伝えている、C:どちらかという伝えていない、D:伝えていない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	26.5	70.6	2.9	0.0	0.0	97.1
教職員・12月	35.1	62.2	2.7	0.0	0.0	97.3
保護者・12月	58.6	32.6	7.0	0.3	1.6	91.2



「教育方針や取組、子どもの様子等を伝えている」と肯定的な回答をした教職員の割合が90%を上回った。保護者においても90%以上が肯定的な回答をしているが、個別の意見を多くいただいていることから、今後も、対面（授業参観、学級懇談、個別面談等）及び文書（学校便り、学校Webページ、学年通信、学級通信等）で、保護者や児童のニーズに応じて、効果的に伝えることができるように努める。

自由記述から

【成果】
①クラスの出来事や様子を細かく教えていただき、毎回感動しながら読んでます。保護者も読んでいて勉強になる内容です。いつもありがとうございます。（保護者）
→ありがたいお言葉に感謝します。効果的な取組については、教職員で共有して今後の参考にさせていただきます。

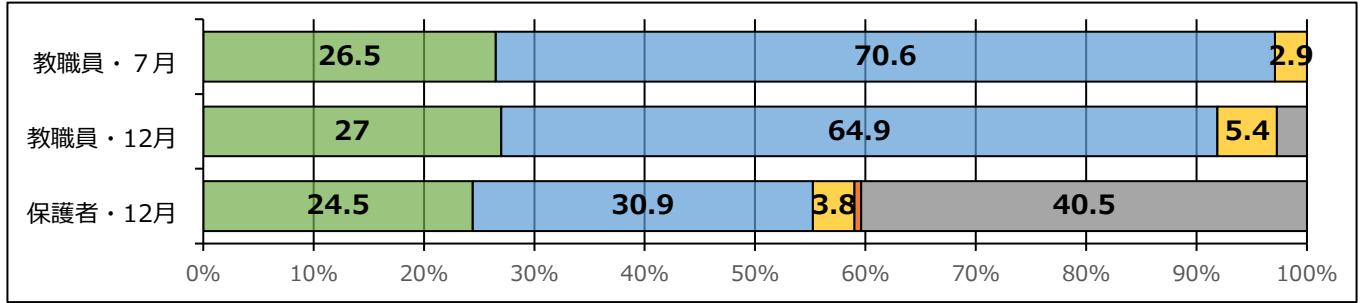
【課題】
①・学級だよりがあまり発行されないのでクラスの様子が分からない。（保護者）
・兄弟の学級によって学級だよりの中身が異なる。（保護者）
・学級通信の写真をカラーでメールで送ってほしい。（保護者）
・学年便りの情報が不十分なことが多い。（保護者）
→貴重なご意見をありがとうございます。学校として、何をどのように伝えていくのがよいのかを検討してまいります。まずは、子どもたちの姿を通して、学校の様子を伝えることができるように、教育活動の充実を図ってまいります。学校生活について、気になる点があればいつでも遠慮なく学校にご連絡願います。

設問18

Ⅳ 総合的な学校力を向上させ、保護者・地域に信頼される取組

- ☐ 教職員「学校は、働き方改革を推進し、教師がゆとりをもって子どもと向き合う時間を確保しているか」
(A:取組が的確に行われ大きな成果を上げている、B:取組が行われ一定の成果を上げている、C:取組が行われているが成果につなげていない、D:取組が不十分である、E:分からない・回答できない)
- ☐ 保護者「学校は、働き方改革を推進し、教師がゆとりをもって子どもと向き合う時間を確保しているか」
(A:確保している、B:どちらかというと確保している、C:どちらかというと確保していない、D:確保していない、E:分からない・回答できない)

	A	B	C	D	E	A + B
教職員・7月	26.5	70.6	2.9	0.0	0.0	97.1
教職員・12月	27.0	64.9	5.4	0.0	2.7	91.9
保護者・12月	24.5	30.9	3.8	0.6	40.5	55.4



「働き方改革を推進し、時間を確保している」と肯定的な回答をした教職員の割合が90%を上回り、昨年度から30%以上の改善傾向が見られるが、依然として教職員の多忙感は減っていない。今後も、子どもたちへの教育活動をより充実させるために、業務改善を進めるとともに、学年や校務分掌、働き方改革コアチームにより学校全体で業務改善を進め、保護者や地域に取組内容等を周知し、理解と協力を促す必要がある。

自由記述から

- 【成果】
- ①・日課の工夫などで放課後の時間が確保できるようになった。業務内容も必要かどうかを検討して改善していく様子が感じられる。（教職員）
- ・清掃の時間等を工夫することにより下校時刻が早くなったことで、放課後に明日の授業準備の時間を確保することができるようになった。（教職員）
- 放課後の時間を確保したことにより、教職員の授業準備の時間が増え、子どもたちのための授業改善につなげることができてきました。学級担任は、毎日複数教科の授業準備を行っていることから、子どもたちが主体的に学習に取り組めるような授業づくりを推進できるよう、さらなる業務改善について検討してまいります。
- ②学校は授業時数や行事等の様子、保護者対応の様子から、働き方改革を推進しているとは思いますが、しかし、そのことが子どもと向き合う時間の確保に繋がっているのかはわかりません。（保護者）
- 働き方改革の推進によって、教職員が子どもと向き合う時間は着実に充実が図られています。ただし、教職員の業務は幅広く、教室で元気に子どもたちと過ごすことができるように、学校としてはさらなる働き方改革の推進を進めていくこととします。保護者の皆様への説明が十分ではない点については、課題として真摯に受け止め、取組を丁寧に周知しながらご理解とご協力をお願いしていくことに努めてまいります。

自由記述から（続き）

【課題】

①チーム担任制として、各学年及び低・中・高学年ブロックごとに教科担任を進められるとよい。（教職員）

→学級担任だけで児童の指導を行うのではなく、学校全体として子どもたちを見守る環境を整えるために、専科指導による授業、部分的な教科担任制、ローテーション授業（授業者を交換しての授業）等によるチーム担任制の取組を進めていくこととします。

②登校時間が遅すぎる。8時から仕事の人もいますのでご配慮いただきたいです。（保護者）

→教職員の勤務時間が8時からとなっており、子どもたちが早く登校しても安全を保障できないことから登校時間を設定させていただいております。地域と連携した見守りなど、登下校の児童の安全確保については、今後ご意見を参考にしながら検討してまいります。

③働き方改革の推進によって、子どもたちにとっては良い方向に進んでいる気がしません。（保護者）

→学校の情報発信不足で申し訳ありません。推進による成果が伝わるように努めてまいります。

④働き方改革のため昨年より下校の時間が早まりましたが、教師がゆとりをもって子どもと向き合えているとは思えないです。子どもたちの活動時間が減ったことは子どもたちのためになっているのでしょうか。（保護者）

→放課後の時間を確保することは教職員にとって大きな業務改善となりましたが、それを子どもたちの活動を充実させることにつなげるように、教職員向けの研修を進めてまいります。

⑤・子どもの休み時間や給食時間や給食の時間が大幅に少ないのは子どもにとって不利益ではないかと考えます。

学校は学びに行く場所ではありますが、対人関係のコミュニケーションを学ぶ場でもあると思います。勉強ばかりでつまらないという話を子どもから聞くこともあります。（保護者）

・休み時間が短すぎると思います。子どもたちが楽しめる時間がないのではないのでしょうか。（保護者）

・以前から短いと思っていた休み時間が今年度から更に短くなり、学校にいく楽しみが感じられなくなっています。（保護者）

→ご指摘のとおり、学校は人との関わりを学ぶ場でもあります。休み時間に限らず、様々な場面におけるコミュニケーションの機会を大切にしていけるように学校全体で考えていきます。また、授業が楽しい時間になるような授業改善に努めてまいります。

⑥・子どもたちが約束を守らない際に、罰を与えるような指導に疑問を感じる。

・授業において窮屈で隙がなく、1年生には厳しすぎるのではないかと感じてしまいます。

・先生の怒鳴り声が聞こえるようだが、違う指導方法はないのか。

→不適切だと思われる指導について情報をいただいた場合には、すぐに管理職が事実確認を行い、実態に応じて指導を行っております。子どもたちを思っただけのご意見に感謝いたします。

⑦持ち物で新聞紙が必要な時が多く、新聞を取っていないので新聞寄付係を設けてはどうか。（保護者）

→貴重なご意見ありがとうございます。家庭の実態を踏まえ、新聞紙等の学習で使用する物をどのように取扱うのがよいのかを検討してまいります。

⑧音楽発表会で体育館に入ると、兄弟がいる保護者が先に体育館にいるので空席が少ない。（保護者）

→運動会と同様に、保護者の皆様の意見を踏まえて実施方法を検討してまいります。保護者席の在り方については、ご意見を次年度以降の実施に向けて参考にさせていただきます。

⑨清掃時の音楽が大音量なのは何故ですか。子どもも毎日うるさいと言っています。（保護者）

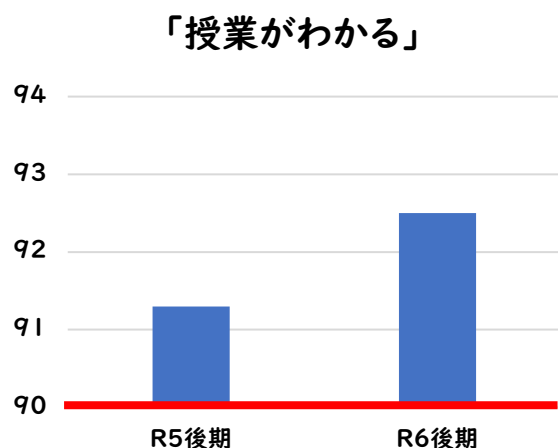
→スピーカーの位置によって音量に差があることが原因だと考えられますが、子どもたちの意見を踏まえて、放送の音量についても検討してまいります。

⑩毎日の家庭学習ノートはスタンプのみの返却ではなく、もう少し子どもの頑張りを認めてあげるような方法はないのでしょうか。

→日中や、放課後の限られた時間の使い方については、少しでも子どもたちのためになるように業務改善を図っているところですが、子どもたちの頑張りを適切に評価する方法については、子どもたちへの伝え方を工夫するなど、学校として考えていきたいと思っております。

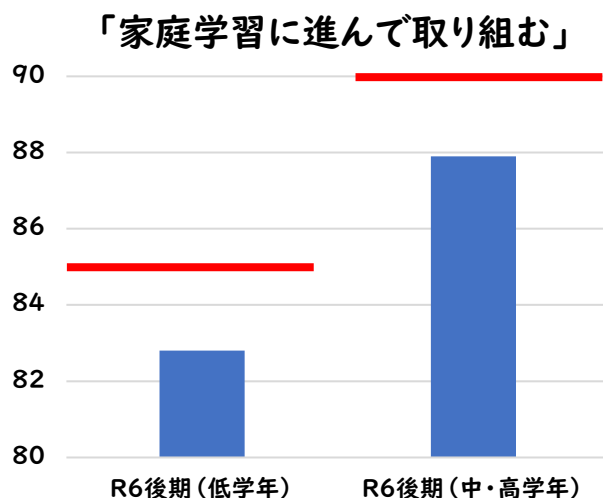
【経年比較】
学校経営方針重点取組事項に係る経年比較

◇「国語と算数の授業は分かる」と肯定的な回答をした児童の割合（目標：90%以上）

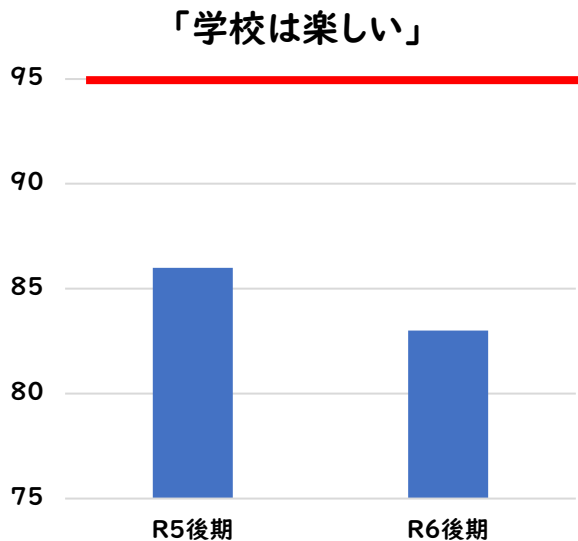


◇「家庭学習に進んで取り組んでいる」と肯定的な回答をした児童の割合（目標：低学年 85%以上、中・高学年 90%以上）

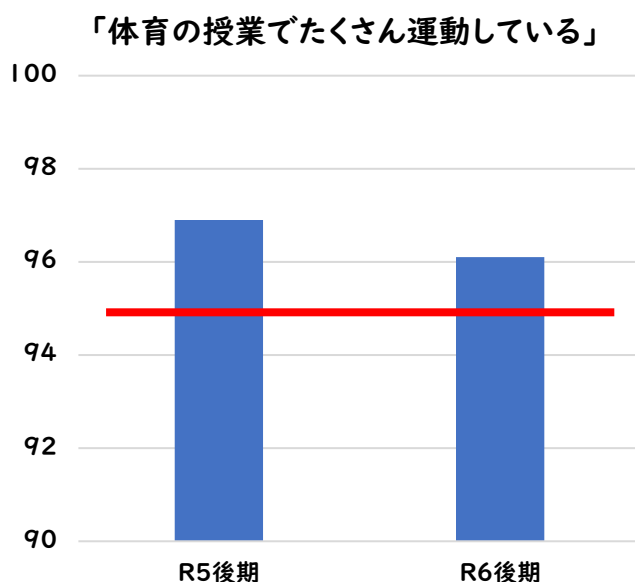
※R5は質問項目が異なるためデータなし



◇「学校は楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合（目標：95%以上）



◇「体育の授業でたくさん運動している」と肯定的な回答をした児童の割合（目標：95%以上）



※赤いラインは令和6年度の目標値

令和6年度学校評価につきまして、アンケート等にご協力いただきありがとうございました。
今回の学校評価の結果を踏まえて、学校運営の改善を図り、児童がよりよい教育を享受できるように、努めてまいります。

今後も、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。



苫小牧市立拓進小学校長 毛利 毅